

「舞子高校の先生に震災当時の記憶をインタビュー」

震災メモリアルアクション **KOBE** の活動に参加している有志の生徒が、本校職員に阪神・淡路大震災の体験についてインタビューをしました。震災を直接経験していない人たちにぜひ読んでいただきたいです。

令和6年 インタビュー



『1人の声を力に』

～舞子高等学校教師の

阪神・淡路大震災当時の記憶～



災害メモリアルアクション KOBE
舞子高校チーム インタビュー班

目次

はじめに 3

インタビューした先生方

① 富永校長先生 4

② 三浦教頭先生 5

③ 田中事務長先生 6

④ 荒木先生 7

⑤ 木村先生 8

⑥ 菅原先生 9

⑦ 中島先生 10

⑧ 西川先生 11

⑨ 藤原先生 12

⑩ 藪先生 13

⑪ 吉山先生 14

はじめに

私たちは「災害メモリアルアクション KOBE 舞子高校チームインタビュー班」です！
これは、「災害メモリアルアクション KOBE」に参加している環境防災科の生徒が、
阪神・淡路大震災を経験された先生方に被災体験インタビューを行い、まとめたもの
です。また、2025 年で震災から 30 年が経過し、震災を経験していない先生が増えて
います。震災を経験していない先生には、ご自身が学生時代に学ばれたり、震災のお
話を聞いたりして対策したことや、意識の変化について、お聞きしました。この冊子
を読んで、私たちの世代や、これから活躍していく若者が震災について知り、近い将
来、発生するといわれている南海トラフ巨大地震に備えるきっかけにさせていただき
たいです。また、この冊子は読み手に温かい印象を持ってもらえるように手書きで作成
したので、その部分もご注目ください。

災害メモリアルアクション KOBE とは

阪神・淡路大震災のつらい経験を二度と繰り返したくないという思いから、学んだ
ことを次に活かすことができる形をつないでいこうという取り組みです。

詳しくはこちら↓

https://www.dri.ne.jp/wp/wp-content/uploads/memorial_concept.pdf

富永校長

当時教員 2年目
尼崎で一人暮らし



まちのようす

家の周りを歩いたが
尼崎北部の倒壊は
少なく、神戸に比べ
たら、被害は小さくと
感じた。

心の様子

神戸のまちを見る我
大きな地震とは
思わなかった。
テレビを見て大変
なことだと気付いた。

心の支え

水やガスが止まった時に学校の先生方
にご飯やお風呂などでお世話になった。

変わったこと

前:何も意識していない 後:防災意識高まった

メッセージ

命はかけがえのないもの。自分たちの大切な
命を守る、受けつぐことを心に留めてほしい。

三浦教頭



震災当時 30歳 小野工業高校の教師

家、おちの様子

明石高校の宿舎に住んでいた。
↓
古い建物だったため、割れ目が入った。
他にも、大木が倒れたり、ガスの匂い
が充満していた。

心の様子

関西では地震が起きないと思っていた。
関東大震災や映画の影響から東京で
大地震があったのだと思った。
20型のブラウン管テレビが10mほど移動
していたことに恐怖を感じた。

先生の支えになったのは**家族** **親族**

先生の妻、娘、先生の弟家族、妻の姉家族、両親と互いに助け合って過ごした。

当時の自分へ「よく立ち直れたな」

生徒や卒業生の中には亡くなった方も。
悲しい思いや辛い思いからよく生き抜けたな

生徒へのメッセージ

「震災という歴史を忘れるな頑張ってください」
非難を繰り返す人生を諦めず頑張ってください!

三浦教頭先生は環境防災科1期生、2期生の担任をしておられました。

「何らかのカタチで恩返しをしたい」という思いから、ボランティアや防災教育を
学び始めた三浦先生は、県から防災に関わる学科を作りたいと依頼
されたことをきっかけに、諏訪先生、和田先生らと環境防災科を立ち上げた。
「防災を通じて将来、地域のために活動できる人間になってほしい」

という思いから防災の授業を行っていた。

GACKTの「野に咲く花のよりに」という、環境防災科生とのおたよりから
生まれた歌が環境防災科を支えた。

ボランティアからは達成感や知識など多くのものを得ることが出来る。
また、ボランティアをさせていただく気持ちをお忘れなさい。

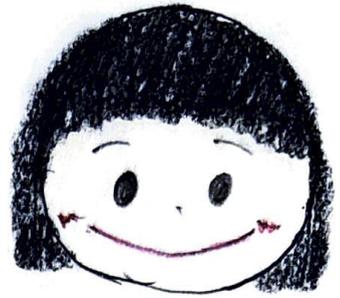
「環防での学びは自分の長所に」

話を伺い、学んだことを生かしてより良い人生を過ごしていきたいと感じた。
命は無限ではない、ということ意識して毎日を大切に過ごしていきたい

田中事務長先生

震災当時 (29歳)

住み 神戸市北区



まわりの状況

長田が燃えているのが見えた
半壊

心の様子

状況を理解することで
精一杯だった
仕事行きの朝大変

支えになったものごと

コンサート、朗読、きれいな物を見た

震災後、先生の中で変わったこと

(前) 高価な食器を
結婚祝い
に
Tさんもらった

(後) 割れる物は
プレゼントしない

生徒へのメッセージ

実際には発生したときに動けるかの想像や、今のうちに勉強しておいて、假立っように準備しておくことか大切!!

電気は大切! パソコンもエアコンも使え、パソコンにおきかわりから用意しておこう!

自分のメッセージ

共且力!!
すべし大事!

た

当時、勤務していた学校で運営はしていたのか?

A、避難所にはなっていない
長田区の高校が一時的に引越してきて電話の線をひいてくれていた。

荒木先生

震災当時 (25歳)

住み 京都府精華町



町・家の様子

京都に住んでいて、ニュースで
阪神淡路大震災が起きた
ことを知った。

あまり被害はなく、揺れた
ダンスを押さえた。

心の様子

映像で見てもあまり
ピンと来ず現実感がなかった。
同じ国内で被害が出た
ので、ショックだった。
どなただけの人かセクセクか
復興にどなただけかかるのかや
友達の安否が気になった。

生徒へのメッセージ

宮城県の大川小学校で
教師の判断ミスがあって、
知らなかったは通用しない。
正常性バイアスにとらわれて
はいけない。

当時の自分へ

間接的な募金活動をしてた
けど少し逃げている所があった。
自分が臆病だと感じた。
被災地に飛びこんで、
ボランティアにいらして、
やれるだけやたらよかった。

木村先生
震災当時(0)歳
住み(神戸生まれ神戸育ち)



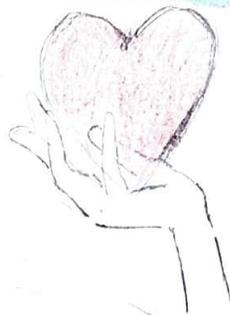
聞いたまちの状況

- 先生から生徒が4人亡くなった体験談を聞いた
- 映像でまちの状況を見た
- 小学校、中学校、高校で学んでいた。

心の様子

- 映像でまちの状況を見たとき、この世のものとは思えなかった。
- 初めは自分事で感じていなかったが、学び続けると自分事になっていった。

支えになったもの
家族、友人



震災の授業を通して先生の中で変わったもの

- 自分事に感じない
- 他人事

⇒ 人は「正常性バイアス」(自分は大丈夫)という考えがある。しかし、決してそのようなことはないことを改めた。「間違っている」という感覚と、「進める」意識が大切だと思う。

生徒へのメッセージ

皆さんは、今、防災を学んでいる最中ですが、これからは依っていかねばなりません。未災者(災害を経験していない人)が語り部をするのは経験した人とは比べると、少し弱くなってしまう。そのため、言葉だけでなく、感情や表現も大切になります。伝える側におかれ、学ぶことを止めず、相手や思いやる気持ちを忘れないうください。

自分のメッセージ

避難バッグを自分で用意出来ていないので、災害グッズを集めて地震や土砂災害など自然災害に備えていきましょ。



菅原 祐 先生



- 震災当時：生まれていない。
- 住み：両親が京都。

震災後の経験

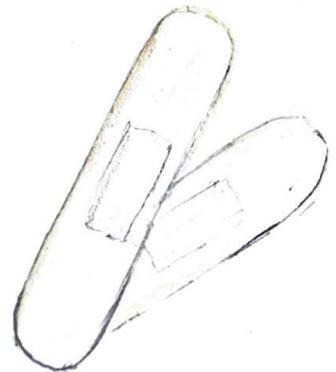
小学校の先生が、「しあわせ運べるように」を作词・作曲した白井真先生だった。先生の話によると、潰れた建物の1階から2階へ移動した後、ペンと紙だけをもって「しあわせ運べるように」を作った。神戸ルミナリエでの追悼式で「しあわせ運べるように」を歌った。

教師になって

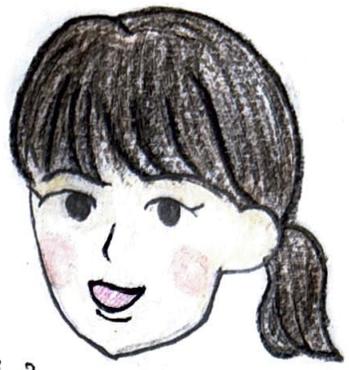
災害が発生した瞬間のことだけではなく、逃げた後どうやって生き抜くかを考えるようになった。そのため、非常用バッグの準備をしている。

生徒へ

南海トラフは絶対にくる。
命だけは落とさないように
してほしい。



中島先生のお話



○震災当時... 9歳 (小学校3年生)

○兵庫県加東市在住 **震度4**

まわりや家の様子

- ・たくさんの食器が割れ、散乱。
- 大きな音に驚き
- ・ブラウン管テレビが倒れる。
- ・被害の大きい地域から**転校生**が来た。

心の様子

- ・テレビで見た神戸の様子が何度もフラッシュバック
- **こわい**
- ・連日の火災や増加する死者
- **やばい**、**焦り**

先生の心の支えになったもの、こと

- ・転校してきた同級生から、それぞれの経馬兎について聞いたこと。
- **自分もがんばらないと!!**

震災前後で変わったこと

前 避難訓練に集中できていない。 → **後** 転校生を見て、**真面目**に取り組む。
 地震に興味がない。 → ニュースなど**地震に関心**をもつようになった。

意識の変化

当時、自分へ

焦らさ
落ち着いて!

生徒へ

実体験について
開ける機会を**大切に**
し、防災につなげて
ほしい!!

— 先生が住んでいたまちのお話 —

先生のまちでは、
被害の大きい神戸に
まち全体で何が出来るかを
考えられていた。

西川先生

震災当時 = 生まれていない

住み = 両親は兵庫県に住んでいた



先生は阪神・淡路大震災についてどのように学んだか
両親から聞いた話で、道路がまるで向こうが
火の海だった。家には、風向きが変わって火がこ
ななかった。

震災について聞いたリ、映像を見たリしてどう思ったか
建物がゆがんでいたことにビックリした。家は意外とも
ろいと思った。

震災について学んで、変わったことがあったか
家の物の配置を変えたり、食器棚の扉が開かないよ
うにした。

先生が震災時に生まれていたら被災した自分にど
んな言葉をかけるか

とにかく明るく。不安にならないように前向きな言葉
をかけたリする。

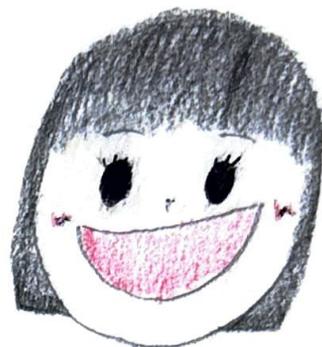
生徒へのメッセージ

生きているうちに南海トラフ巨大地震が来るから、
他人事ではない。大丈夫だと思っているうちが一番
怖いから、非常食などを用意しよう!

藤原先生

震災当時 (内緒にしておきたい)

住み 姫路



まわりの状況

そんなに被害
はなかった

心の様子

ただ「ひと」から驚きしかなかった
普段から想像していらなかった
→何をしたらいいか
分からなかった

支えになったもの、こと

被害が少なかったから、あまりない

震災後、先生の中で変わったこと

(前) ニュース等で見聞き
するが、深く考える
ことはしていなかった

(後) 自分も何かできるのでは
且かの合うことの意味と
すはらしさが分かったから

生徒へのメッセージ

小さなところで止まらずに
大きなところで活躍
してほしい。

外の世界を見て、広い
視野で考えて生きて
ほしい。

「冒険心」をもって!!

自分へのメッセージ

準備が遅かった

「どこに連絡する」

集合場所を

必ず決めておく

↓
現実的にくるから

十A

被災後、母と被災地
を歩いた

① どこを歩いた?
A、三宮の交通の便が
通るところまで

② なぜ?

A、知っておくべきだと
感じたから

③ どんな状況?

A、時計が5時46分
で止まったまま。

藪先生

震災当時(5)才

当時住んでいた町(名谷)



当時の状況

・5才の時に忘れし部分もあるが、朝、母と兄と寝ているときに揺れた。1階は畳の物割れしていた。
- 名谷は被害が少なかった。

・父は漢方に住んでいるひいおはあやんの家に行った。1階は潰れしたと聞いた。1階で寝ているひいおはあやんとはんとかいけると父から聞いた。

心の支え

今、考えみると、親や周りの大人が、自分に負担をかけた方がいいにしてくれた。

被災後、先生の中で変わったこと。5才で経験した小、中、高の地震の勉強をして、「震災がある町で育つ」という自覚はあった。

当時の自分へ
メッセージ

「大変だね」と
伝えるんだよ。

今の生徒へメッセージ

この町は大きな地震がある、という自覚をもてほしい。

吉山先生



震災当時5歳 大阪府、池田市に住んでいた。

まわりの様子

父親が池田市役所の職員だったため、その職員が住む職員住団地に住んでいた。

階段の壁が剥けたひびが入っていた。

心の支え 父親 保育園

地震の発生中に父親が守ってくれた。

不安があったため保育園に保育園の先生はほとんど来ており、寄り添ってくれた。

震災前後の心の変化

前: 余震や揺れを楽しんでいました。
後: 小さな揺れも恐怖、トラウマに。

先生の旦那さんのお話

家が全壊、住む所がなくなってしまいました。通っていた小学校も避難所になり、通えなかった。そのため、両親は神戸に残り、旦那さんとその姉は広島へと疎開する十分な力で転校してました。それから、元の生活に戻るまでとても長い時間がかかったという。

感想

当時5歳という、幼い頃の記憶でも鮮明に覚えていることに震災の衝撃の大きさを感じた。いつもと違って目覚めたりというのは人間の本能的な部分なのかなと思った。

先生や家族の行動

5:30頃 - いつもと違って目覚める。テレビ台の前にある椅子で母が産まれたばかりの弟にミルクをあげていた。

5:35頃 - 先生はその後眠れる。キッチンジュースを飲むに行った。

5:46 - 先生は再び布団に入る。母親と弟も布団に入っていた。地震が発生。

地震発生中 - 父親が上に覆いかぶさり、先生と弟を守ってくれた。

地震発生後 - キッチンでは食器棚が倒れていた。キッチンでの道が塞がれていた。母が座っていた椅子にはテレビが倒れてきていた。

心の様子

異変を感じる

5歳ながら不安、地球がおかしくなっちゃったのかな、もう死んじゃうのかな。

父が守ってくれたことが心の支えに安心感があった。

一人で被災してはいけないという恐怖、母と弟も命を落としていたかもしれない。

生徒へのメッセージ

どれだけ防災意識や知識があっても、パニックになってしまう。それでも、起きたあとの実践力、行動力があることを期待している。余裕をもって周りの人の力を貸してあげてほしい。